

事務局便り

令和5年5月10日

令和5年度がスタートしました。会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

全国家庭科教育協会は、本年度も、家庭科教育の振興・発展のための活動を進めてまいりたいと思います。本年度も宜しくお願い致します。

—オンライン型 令和4年度春期研修会 盛会にて終了!—

3月28日の春期研修会は、オンライン開催で参加者は51名でした。横浜国立大学の堀内かおる先生に丸1日ご指導いただきました。テーマは、「現代生活の課題から授業のテーマをつかむ—家庭科の授業デザイン講座—」ですが、その研修をするために、Slido, Padlet, Google Jamboard 3つのアプリをご指導いただきました。Padletで「現代生活の課題」を書き出し、参加者全員で137事項が書き出されました。これは、今後の機関誌のテーマにも使わせていただきます!そして、Google Jamboard を活用してグループワークを行い、10グループから「現代的課題を取り上げた題材案・授業展開」についてグループで出た意見の発表、そのまとめを堀内先生にご指導いただきました。

詳しい内容については、7月10日発行の機関誌2号に掲載予定です。

—令和5年度の研究大会の詳細が決まりました—

***第73回研究大会 8月8日(火)・9日(水) ハイフレックス型での開催**

◎会場参加・オンライン(Zoom)参加のどちらかを選んでの参加です

同封した「第73回 全国家庭科教育協会研究大会」の両面刷り案内チラシをご覧ください。1日目には、学習院大学文学部 教授 秋田喜代美先生に「これからの家庭科教育に期待すること」をご講演いただきます。秋田先生をはじめ講師の先生方は全員、会場に来て頂く予定です。発表者は、参加者と同様、会場・オンラインを選択していただいておりますが、今のところ会場参加を多く希望されています。会場の関係で、会場参加は50名までの先着順ですのでご注意ください。研究発表に対する講評を文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官の熊谷有紀子先生と田邊暁子先生にお願いしております。

午後の校種別研修会

小・中学校部会: 元 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 筒井 恭子 先生による「資質・能力を育む家庭科、技術・家庭科の授業づくりと評価」の講義を中心に研究協議をします。

高等学校部会: 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 田邊 暁子 先生による「家庭科における学習評価」の講義を中心に研究協議をします。

5月22日(月)から申し込み開始です。ご参加お待ちしております!

—令和5年度 夏期研修会 準備中—

「授業に生かす衣生活研修会」8月10日(木) 会場: 新宿区立西戸山中学校

「授業に生かす食生活研修会」8月18日(金) 会場: お茶の水女子大学附属中学校

夏期研修会については、概要の案内チラシをご覧ください。日時と会場は決まっておりますが、チラシに記載の時間や内容は予定です。詳細に決まり次第、ホームページに掲載して申し込みを開始する予定です。夏休みのご予定に入れておいてください!

衣生活研修会は、(一社)日本縫製機械工業会の協力を得て、「ミシンの基礎・失敗しないコツ」をご教示いただきます。エコバックなど2点を製作予定です。ミシン使用になれていない先生方のご参加をお待ちしております。食生活研修会は、副会長の石井克枝先生に講師に調理実習を実施する予定です。メールマガジンに登録していただけると決まり次第案内を受け取ることができますので、ぜひご登録ください。(裏面)

—メールマガジンの登録をお願いします！—

ZKK 事務局から、研究大会・研修会の情報の他、賛助会員様からの有益な情報を配信します。右の QR コードからご自身のメールアドレスをご登録ください。なお、登録後の変更・退会等は事務局までご連絡ください。



—機関誌 1 号「多様性の尊重」 編集後記—

令和 5 年度の機関誌「家庭科」は、昨年引き続き、年間テーマを「新時代に向かって」とし、1 号の小テーマは「多様性の尊重」、2 号の小テーマを「多様性—アンコンシャス・バイアスを意識する—」として編集しております。多様性を認め合う社会の実現のために家庭科教育はとても大きな影響力をもっているのでは？と考えさせられました。

本年度のシリーズは、「カリキュラム編成における「系統性」を考える」として、筑波大学の木村範子先生に 4 回ご執筆頂きます。

機関誌「家庭科」をお読みいただき、授業づくりの参考にしていただければ幸いです。

*シリーズ～全国家庭科教育協会の歴史(3) 創立当時の運営 ①掛図の販売

前回、ZKK 初年度会計報告より、掛図「六つの基礎食品」の特別会計により運営資金を得ていることを記事にいたしました。この掛図「六つの基礎食品」の宣伝を、1950 年 9 月発行の雑誌『家庭科教育』24 巻 9 号に掲載しています(下図)。「四色刷の美しいポスター仕立て」「実費 30 円」「府県代表者は取りまとめ、至急お申し込みください」とあります。この六つの基礎食品の図は、厚生省が発表したものであり、厚生省職員であった大磯敏雄の「栄養学入門」(1948 年、第一出版)に同じ図が掲載されています。ZKK が実際に作って販売した掛図がどんなものだったかは確認できていませんが、学校での家庭科の栄養指導に活用するよう、厚生省発表の「六つの基礎食品」を紹介したと考えられます。この掛図を使用して 1 年間栄養指導をした天野ハルノ(港区朝日中学校教諭)氏がその実践を雑誌『家庭科教育』25 巻 7 号(1951 年 7 月号)に紹介しています。それによるとこの図の周囲に所要量である実物大の食品が示されていてそれが最も意義があると述べています。また、この記事を読んだ熱心な方々が、天野ハルノ氏へ問い合わせや中学校に來訪したことを、機関誌 No. 8~9 (1951 年 8 月発行)に「全・家・協会発行の図表について」という記事で書いています。雑誌『家庭科教育』24 巻 12 号(1950 年 12 月号)には、「六つの基礎食品について(略)全国協会組織の一助に資するため、扱いを本位としています。」と全国家庭科教育協会便りに書かれています。ZKK 初年度会計報告によると掛図の販売で、経費を差し引いて 97,398 円の利益があり、協会の会計に 44,000 円を繰り入れています。会費収入だけでなく、掛図の作成・販売を手掛け運営資金に充てていたことがわかります。次号でその後の運営資金の獲得についてご紹介します。



(36)

雑誌『家庭科教育』24 巻 9 号(1950 年 9 月号) p36